

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200180		
法人名	医療法人 恵和会		
事業所名	医療法人 恵和会 グループホームたじま		
所在地	岡山県倉敷市児島柳田町991-1		
自己評価作成日	平成22年3月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390200180&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル		
訪問調査日	平成22年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は医療法人の為、母体病院の主治医と看護師と連携を図り、充実した医療を行っている。その為、入居者様、ご家族様には「安心できる」と言っていたいでいます。
 また母体の病院にて月～土曜日の朝1時間のリハビリに行き、歩行訓練、歌や踊りを楽しまれている為、毎日刺激のある生活を送っていただいています。
 ホーム内ではのんびりと穏やかに過ごして頂きたい為、職員にはゆっくり焦らず業務主体ではなく、入居者様を優先的にケアにあたるよう、伝えていきます。一緒に家事作業全般をお手伝いいた中で、コミュニケーションをしっかりと図るよう心がけています。
 また週1回、外出美を設け入居者様の希望に添ってドライブ、買い物、喫茶等を楽しんで頂けるよう支援しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

見晴らしの良い高台に建ち、静かで落ち着ける環境である。地域医療を目指した医療法人設立の事業所で、入居者や家族から医療面でも安心が得られている。代表者が地域住民から信頼されていることが事業所と地域とのつながりに良い影響を与えており、日常的に小・中学生や高齢者が気軽に立ち寄り入居者との交流を図っている。日中は常時職員3名以上が配置されていて対応にもゆとりがあり、入居者のペースに合わせた入居者本位の支援がなされている。入居者を良く知ることから始まり、少しの変化にも感性を働かせ、入居者の内面にも目を向けていくことを心掛けている。職員も入居者も明るく、笑顔があふれている。生活にメリハリをつけるよう外出の機会も多い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内の掲示板に職員が常時見られるよう掲示し、理念の共有ができています	医療法人開設の事業所であるが、グループホーム独自の理念を掲げ実践している。職員は入居者一人ひとりの支援のあり方についても理念を念頭に置いて話し合っている。理念は、掲示板に掲げたり名札の裏に記入して各自が常に確認している。	今後とも、地域に密着したサービスを展開していくことを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の幼稚園の運動会に参加させていただいたり、母体の病院に地域の方が踊りの慰問等に来て下さるため、ホーム入居者も喜ばれ交流も図れている	もともと地域に根差した医療を目指している医院が開設したグループホームであり、地域住民とのつながりは深い。小中学生や近所の老人が通りがかりにトイレを借りに寄ったり、お茶をすいていったりという自然の交流が日常的に図れている。	地域の中の資源として住民にも受け入れられているように感じた。入居者のみならず職員も積極的に地域の行事に参加し交流を図っていくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に参加者の方に、パンフレット、広報誌を配布していただくようお願いしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議時に、行事、グループホームに関する事を報告している。また意見や要望を聞きだし、サービスの向上に努めている	運営推進会議は2か月毎に開催されており、老人会会長、包括支援センター職員、家族の参加がある。参加者との意見交換をし、入居者のサービスにつながるような情報を提供してもらったり、提案などを受けている。	全家族に案内を出しているとのことであるが、参加は少ないとのことである。夏祭り等、家族が参加するイベントがあるので、そのような機会を利用して運営推進会議を開いてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等で、地域包括支援センター職員と連携を取りながら取り組んでいる	市町村との書類等のやり取りは、総務が行っているため、グループホーム職員が直接市職員とやり取りする機会は少ない。職員は、分からないことがあったら尋ねたり、市が開催する研修会に参加するようにはしている。	機会を作って市の担当者にグループホームの取り組みの様子を伝える等でコミュニケーションを図り、日ごろから協力関係を築いていかれるよう期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会、研修等で職員には周知している。また玄関は施錠していないが、ユニットから外へ出る入口は緊急時のみ施錠するようにしている	玄関は施錠されていないが、1階ユニットの入り口は施錠している。帰宅願望のある時には、一緒に外に出かけたり話題を変える等で気分の転換を図っている。言葉を含めて行為が拘束に当たらないか職員同士お互いに注意している。	今後も折に触れ、何が拘束に当たるか、今行っている行為は拘束には当たらないのかなど常に意識して取り組み、お互いに確認し合っ、安心・安全の生活の支援を継続されることを願います。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束、虐待はないが言葉の虐待や拘束とならないよう日頃から職員間で連携を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者様はいないが、資料等配布し、学ぶ機会を持っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、書名、捺印を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見や要望をケアプランに反映させ、職員のケアに対する意識を統一できるようにしている	面会の機会には、入居者の様子を伝えると共に、積極的に家族の意見を聞くようしている。運営推進会議にも全家族に案内状を出しているが、現在のところは参加者は少ない。	更にご家族の満足度調査を実施するなど、忌憚のない意見を聴く工夫を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議、連絡ノート、申し送り等で聞き反映させている	1～2か月毎に開催しているケア会議の時に、全職員から業務や運営に関する意見を聴くようしている。出された意見は、必要によっては理事長や総務にも伝えている。職員にとっても意見は出しやすいとのことである。	管理者は、職員一人ひとりの意見を汲み取る努力をしていると感じましたが、個別に意見を聞く機会等についても工夫されたいと思います。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は母体の病院のリハビリ時、週三回の来所時に職員の状況や変化を把握している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加してもらうことで技術、知識の向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加し、グループワーク等で意見を交換することで交流を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望等をゆっくりと伺い、しっかりとコミュニケーションを図ることで、関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望等を伺い、来所の際にも職員から積極的にコミュニケーションを図ることにより、話しやすい関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの段階で今のニーズを把握できるよう、しっかりと聞き取りを行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には常に「介護される側」にたって、支援するよう日頃から口頭で伝えている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問しやすい環境づくりに努めている。面会時にご家族を交えてのコミュニケーションを心がけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	週一回の外出時に、馴染みのあった地域にドライブに出かけ、回想する事により途切れないよう支援している	毎日、医院のリハビリに通っており、馴染みの人たちとの交流ができている。職員は、馴染みの場所に一緒にドライブしたり、信仰している協会に同行するなどの支援もしている。家族の方からも情報を得て、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が入居者同士の会話をつなぐことにより、孤立しないよう支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談、依頼等があった場合、支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を把握する事。またご家族からも情報を得ることでケアに反映できている	思いや意向を把握するために、本人から聴いたり、家族からも情報を得ている。うまく表出できない場合でも、普段のその人を良く知ることによっていつもと違う様子がある時には、内面を探っていく努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等を職員間で共有し把握に努めている。また会話の中で馴染みの暮らし方を聞きだす事ができている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の入居者様の状態を観察し、個人記録に記入し情報を共有している。また入居者様には興味のある事をして頂いている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議等で意見および情報交換を行い、最長で6ヶ月に1回、ケアプランの見直しを行っている	ケア会議では、入居者一人ひとりについて今困っていること、しないといけないことなどケアのあり方について詳細に検討し合っている。プランの見直しは、変化のあった時または6か月毎に行い、入居者や家族の意見も聴いて作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、連絡ノート、申し送り等で情報を共有し、会議で討議しケアプランの見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向をくみ取り必要な場合、ケアプランに活かし支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で包括支援センターの方や、老人クラブ会長の方と情報交換を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の病院の医師や協力医、またはご家族の希望されるかかりつけ医と密に連携を取り、適切な医療を受けられるよう支援している	入居者や家族の希望する受診先を聞いているが、ほとんどの入居者が母体の医療機関で医療・リハビリを受けている。特殊な治療が必要な時には、家族が送迎をしているが、主治医とは電話でも連絡を取り合い、必要な情報を提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体の病院から、月～土曜日に看護師の来所がある為、その都度状態報告を行い、適切な看護を受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際は、ホームより情報提供を行い早期退院が出来るよう連携を図っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については、ご家族に医師から十分な説明を行い、職員からもホームとしての指針の説明を行うことで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期には、家族にホーム内でできることを説明し、方針について話し合いをしている。家族の協力も得ながら、現在までに3名の方の看取りも経験している。	家族の気持ちも、状況によって揺れ動くものと思います。その時々思いに寄り添いながら、関係者みんなが納得のいく支援に取り組んでいただくことを願います。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを詰所内に掲示している。また勉強会等で周知している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、避難訓練を実施。アニュアルも作成し、消防署の方の協力を得て、消火訓練も行っている	年2回、入居者も参加して避難訓練・消火訓練を実施し、消防署員の立ち会いも行われている。地域の消防研修に職員が参加したり、ホーム内には簡易スプリンクラーも設置されている。	地域推進会議の機会等を利用して、地域との具体的な協力体制について話し合いをしておかれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳を大切にし、ご本人の羞恥心に配慮した声かけ、支援にて対応している	入居者一人ひとりが自分のしたいことに無理なく取り組めるように支援している。入居者の思いを尊重し、たとえば過去にさかのぼって話をしている時にも否定せずに話を合わせ、タイミングを見計らって現在に戻すようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が難しい入居者様の表情を伺ったり、いろいろな選択肢をお伝えし、できるだけご本人様に決定して頂けるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の意向を優先し、買い物、外出、行事等でそれに添えるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様自身に来ていただく服を選んでいただいたり、時折職員がお化粧をさせていただくなど、その人らしくおしゃれができるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、片付けの際には、出来る範囲で入居者様と行っている。又メニューに関しても行事食、外食等で好きなものをお出しするようにしている。	栄養士がたてた献立を基本としつつ、入居者の希望を採り入れたり、季節の物を取り入れている。外食や喫茶店に行く機会もある。入居者一人ひとりが準備や片づけなどできることに参加している。職員も一緒に食卓を囲み、会話ははずんでいた。	入居者の嗜好や身体状態等も考慮しながら支援している様子が窺えました。継続した支援を期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成したメニューに添って調理している。また食事以外にもティータイムの時間を設け水分摂取に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後とまではいかないが、朝夕は声かけにて口腔ケアを行い、その他は必要に応じてして頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗のパターンを把握し、それに併せて羞恥心に配慮した声かけ、誘導を行い自立に向けた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄パターン、習慣や癖を把握し、声かけ、誘導、見守りなどを行っている。各居室のトイレの他、車いす対応のトイレがあり、排泄時のプライバシーに配慮しながら自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の摂取量に配慮している。また主治医指示のもと、運動や下剤等で排便コントロールを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は決まっているが、入浴を希望されない時は無理強いせず、出来るだけ入浴していただけるような声かけを行っている	基本的には、一日おきの入浴を支援している。毎日入浴を希望される方に対しても、希望に沿った支援がなされている。入浴の拒否が見られる場合には、時間や人を変える等タイミングを見計らって支援している。	入浴時間についても、入居者の希望に近づけるような工夫を期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間は入居者様のペースに合わせている。また日中の休息も、状況に応じて対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医指示のもと、処方箋をしっかりと確認、理解を深めている。また変更等があった場合は薬ノートに記入し情報共有に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の得意とされている分野で力を発揮していただくよう役割を決め、感謝の言葉をお伝えし、ご本人にやりがいを感じていただけるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	母体病院で行われている、月～土曜日の朝1時間のリハビリへの参加。 週一回、外出日を設け希望に応じて外出している	初詣、外食、買い物、リハビリ、ドライブ、幼稚園の運動会の見学など、入居者の希望に応じた外出支援がなされている。ベランダや庭にも出やすく、水やりや野菜の収穫を通して外気に触れる機会が多い。	商業施設への外出や、ドライブなど、外出の機会が多い。一人ひとりの希望を叶えていくことは時間的にも人的にも大変と感ずますが、今後も継続していかれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している人はいない為、ホームにてお小遣いを預かりしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもかけていただくことが出来る。また年賀状等、ご本人様に書いていただき送らせて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員間で工夫し、季節の掲示物等で季節感を感じていただき、混乱を招かないよう居心地のよい空間づくりに努めている。	共用空間は南側に面しており明るく、見晴らしがよい落ち着いた環境である。季節感のある花や飾り付けがされている。畳のスペースやソファが配置され、入居者は思い思いの場所でくつろげている。新聞なども手に取りやすい位置に置かれている。ホーム内全体に家庭的な柔らかさがある。	掃除も行き届いており、装飾も程良いと感じました。今後とも、稚拙になったり、過度の装飾にならないよう工夫していかれることを願います。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを、廊下に長椅子を設置し、それぞれお気に入りの場所で仲の良い方と過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より家具、寝具等を持ってきていただき、自宅と同じように過ごして頂けるよう工夫している	家族とも相談しながら、入居者一人ひとりの生活スタイルに合わせて、馴染みの物を持ち込んでその人にあった環境作りをしている。読書好きな方、畳で過ごしていた方、すっきりと物を置かない部屋などで、その方らしさが窺える居室の環境である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の状況に応じて、会議で検討しフロア、居室、共同トイレ等、工夫している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200180		
法人名	医療法人 恵和会		
事業所名	医療法人 恵和会 グループホームたじま		
所在地	岡山県倉敷市児島柳田町991-1		
自己評価作成日	平成22年3月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390200180&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル		
訪問調査日	平成22年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体の医療法人へ月曜日から土曜日までは毎朝、一時間程度歌・踊り・体操・歩行練習など外出を兼ねて車に乗ってリハビリに参加されています。主治医・看護師も参加して、一人ひとりに声をかけし、健康管理を行っています。オープンして3年弱になりますが、地域の方々が行事への参加を呼び掛けて下さることも徐々に増えております。入居者の方々がそれぞれの個性を発揮し、時にはトラブルもありますが和気あいあいと楽しそうに過ごされています。職員も家族の一員のようにその中に加わり、時には子供、時には孫、又、近所の人となり、会話に参加しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有空間に掲示している。 職員全体で話し合う機会を持ち共有して実践につなげていけるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園、小学校、地域の行事など積極的に参加している。 散歩に出掛けた時挨拶を交わしたり、近隣の方が季節の果物を下さったり、帰宅途中トイレを借りに立ち寄る方もいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌、パンフレットを発行して、家族、地域の方に配布して理解や支援に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常生活の様子、行事報告、現在取り組んでいる内容など報告し意見を頂き、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等で地域包括センター職員と連携をとりながら取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が正しく認識している。 ただし安全確保の為やむを得ずユニット出入口は施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア会議等で話し合っ防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について利用している人がいない為、研修があれば参加する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、一方的な通達にならないよう時間をとって丁寧に説明し、理解、納得していただき、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者は日常生活のケアで、家族等は面会時いつでも言っていただけよう雰囲気づくりに留意している。 出された意見要望等はケア会議で話し合い反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の要望、意見を聞き、日頃からコミュニケーションを図り反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者も頻繁に現場に出ており、入居者と過ごしたり、職員の疲労やストレスの要因について気を配り、資格取得に向けた支援にも積極的に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修はなるべく多くの職員が参加できるようにしている。 研修報告は会議で発表してもらい、資料は職員配布して共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加して情報交換を行いサービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の生活状態を把握するように努め、ご本人の求めていることや不安を理解するためコミュニケーションを図り工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に近況報告して、不安や要望等を伺い信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の面談時に聞き取りを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として昔の習わしや暮らしの知恵などをお聞きし、普段の生活に取り入れたり年中行事に役立てている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に本人と家族の時間を大切にするよ支援している。誕生日会に家族をお招きして絆を深めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から信仰のあった宗教の会合に参加したり、馴染みの地域に出掛けられるよう支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアで過ごされる入居者が多い為、自然と会話が弾んでいる。孤立した入居者は職員が調整役となり支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談、依頼があった場合、支援に努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者からの意向を把握するのは困難な為、家族から情報を得ている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴。既往歴等、職員が共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態観察を行い、個人記録に記入し共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議の場で計画作成担当者でなく、職員全員の意見をプランに取り入れ介護の反映に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、連絡ノート、申し送り等で情報を共有し、会議等に介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者、家族が安心して暮らしていけるよう、状況に応じて支援、サービスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等で地域包括センター職員や老人会会長と情報交換を行っている。H. 21. 3からH. 22. 1まで介護相談員の方に訪問して頂きました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体病院の医師や協力医は密に連携を取り、適切な医療が受けられるよう支援する。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体病院から月～土に看護師の来所があるため、その都度状態を報告を行い適切な看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合、ホームより情報提供を行い早期退院できるよう連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、終末期においては家族に主医師から十分な説明を行い、ホームとして指針説明を行い、医師、職員が連携を取り支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを事務所に掲示し、職員は意識して確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	、避難訓練実施マニュアルを作成し、年2回消防署の協力を得て、消火訓練もっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、声かけ、言葉遣いに注意するよう心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でコミュニケーションを図り自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員と一緒に服を選んだり、ご本人がこだわっているスタイルを家族からお伺いして支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で育てている野菜を一緒に収穫して、おもに下ごしらえなど協力していただき食卓にお出ししている。外食、行事食等も積極的に取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記録し、嚥下困難な方には粥食、刻み食を提供している。水分補給も確保できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方は、声かけを行っている。介助の方は起床時と夕食後に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、自尊心に配慮しながら入居者に応じた排泄や排泄むけた自立支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医の指示を受け、服薬の調節を行っている。 飲食物に工夫や運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は決まっているが、個々にそった支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりの生活習慣に合わせた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示のもと、薬剤情報提供書を確認して、変更がある場合、連絡ノートに記入し服薬内容を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりに合った力を最大限に活かし、取り組んでいるが、本人の楽しみに繋がっているのか疑問に思うことがある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週1回外出日を設けている。 母体病院で行われている月～土の朝1時間のリハビリへの参加。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお預かりして事務所で管理している。 金銭管理できる方は自己管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている入居者がおり、自由に家族と連絡をとっている。 他の入居者は不安な時、希望があれば家族と相談して支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に掘りごたつがあり、入居者が食事したり、お茶を飲んだり、テレビを観て過ごせるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士が良好な関係を保てるよう座る席を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具等を持ち込まれている方は少ない。フロアにて過ごされる事が多いので人とのつながりを大切にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不安や混乱、失敗を招かないように、身体状況に合わせ環境整備に努めている。		